

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	若葉保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	代表理事 熊本 晃喜	定員（利用人数）：	60（58）名
所在地：	240-0021 神奈川県横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町3-205		
TEL：	045-712-1960	ホームページ：	https://wakabahoikuenn.jimdofree.com/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	1967年9月4日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	一般社団法人 若葉保育園		
職員数	常勤職員： 13名	非常勤職員：	19名
専門職員	保育士 24名	栄養士	1名
	看護師 0名	調理員	2名
	保育補助 2名	事務	1名
施設・設備の概要	居室数： 保育室2室、沐浴室、調理室、事務室2室、更衣室、休憩室、園庭、第二園庭	設備等：	ボルダリング、多目的トイレ、駐車場

③理念・基本方針

理念 心身ともに健康で強い子を育てる

保育目標

- ・丈夫な子ども
- ・元気に挨拶のできる子ども
- ・お友だちと仲良く遊ぶ子ども
- ・自分の気持ちを素直に表現できる子ども
- ・自分のことは自分でやろうとする、また自分でできる子ども

保育の軸

よく遊び、よく食べ、よく眠る

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、横浜市の認可園となり3年目ですが、設立は1967年で、50年以上地域に根差した保育園として役割を果たしています。

園庭開放や交流保育、一時保育の実施を通して、地域の保護者から子育てに関する相談を受け付けているほか、育児講座では、テーマに沿って園の保有する専門的な情報を提供するとともに、講座の中で、育児の悩みをいっしょに考えてアドバイスを行うなどしています。また、園のホームページ上で子育てに関する悩みを受け付けている相談機関を紹介するなど、地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます。

卒園児や在園児の保護者有志による「若葉の会」と連携して、地域の人も参加できるフリーマーケットや焼き芋パーティーなどのイベントを園庭で行っています。また、若葉の会と園が自治会とも連携して、近隣の公園の草刈りなどを行っています。

近隣の高齢者施設などともつながりを持ち、子どもたちが作った製作品をプレゼントしたり、散歩の道中で窓越しに挨拶をしたり、コロナ禍においても、地域と子どもたちとの交流を工夫して実践しています。

在園児の保護者に対しては、日々のコミュニケーションを大切にするとともに、スマートフォンで利用できる連絡システムを活用して、園の情報や子どもたちの様子などをこまめに配信するなどして、双方で子どもの成長を見守れるよう取り組んでおり、信頼関係を構築できるようにしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月15日（契約日）～ 2023年3月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、保育を実践しています

園では、アットホームな雰囲気の中で職員全体ですべての子どもを見守れるよう、余裕を持った人員配置を行いながら、子どもが安心して園での活動に主体的に取り組めるよう環境を整え、「よく遊び・よく食べ・よく眠る」を保育の3つの軸として大切にしています。3歳児クラスから導入しているマラソンの取り組みや外部講師によるリトミックなど、体を動かす活動内容を積極的に取り入れているほか、野菜の栽培やクッキングといった食育活動など、子どもたちがさまざまな経験を積み重ねられるよう計画を立案しています。また、子どもたちが落ち着いて過ごすことのできる環境を整備して、心身ともに健やかに成長できるよう、保育を実践しています。

◆園の目ざす保育の方向性を職員間で共有しながら、取り組みを進めています

園では、クラス内での日常的な話し合いや月に一度の職員会議などで、日々の保育実践の振り返りや互いの気づきを伝え合い、職員間の連携を深められるようにしています。園内研修では、「保育研究」と称した研修を行っており、年度ごとにテーマを設定して、テーマに沿ったクラスごとの取り組み内容や実践の振り返りを発表し合っ、職員相互の意欲向上につながるようにしています。今年度は「環境」をテーマに設定し、人的な環境、物的な環境についてや子どもの特性や発達段階に応じた環境設定のあり方などを研究して発表しています。こうした研修を行う中で、園の目ざす保育の方向性について共通理解を深めながら、取り組みを進めています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審にあたり、ご関係者の皆様にはご理解ご協力を頂きありがとうございました。
第三者評価を受審することによって、振り返りを行うことができ、現状の認識と今後必要なことを明確化することができました。

園として力を注いでいる「戸外活動」「食育」「個々に合わせた環境構成」について高い評価をいただけたことは大変嬉しく思います。

一方、保護者アンケートでは同じ項目でも真逆のご意見が見られ、園と家庭の共通認識を持つことの難しさを実感致しました。

価値観の多様化、要配慮児の増加、家庭支援の必要性の地域格差、待機児童の地域格差…保育を取り巻く環境は変化しています。

「どの地域で生まれ育っても一定水準の経験機会を得られること」「目先ではなく、将来を見据えた連続性を踏まえた保護者支援」が、児童の最善の利益の一つであると考えます。

今後は、より開かれた保育を行い、「家庭と集団の場での環境の違い（に伴う子どもの様子の違い）」についての共通認識や、家庭との連携をさらに強めていくこととともに、地域の子育て支援を通じて、相互理解を深め、子どもにとってより良い環境づくりに努めて参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり